

平成23年度奥尻町離島漁業再生支援交付金事業の公表について

町では、離島漁業の再生を図るため「離島漁業再生支援交付金事業」に取り組んでいます。

この事業では、漁業生産力の向上や漁業集落の創意工夫を活かした取組みを推進することで、離島漁業の再生や海域環境の保全等といった多面的機能の維持増進を図るものです。

また、関係要領等の規定により昨年度実施した取組みの内容を次のとおり公表します。

| | | | | |
|-----------------------|---|--|---|----------|
| 協定対象漁業世帯数 | | 170世帯 | 交付金額 | 23,120千円 |
| 平成23年度実施した取組事項 | | | | |
| 漁場の生産力の向上に関する取組 | 取組内容 | 取組の成果 | 取組成果の説明 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●ウニ深浅移殖放流 ウニ深浅移殖放流は、潜水器漁業により深場に生息しているウニを漁場となる浅場へ移殖することで未利用となっていた資源の有効活用を図る取組みです。 ●アワビ種苗放流 アワビは島の特産品であるが、最近では、異常気象など様々な要因により資源の減少が深刻な状況となっています。このため、アワビ資源の回復のため種苗放流を計画し、過去の放流実績等を踏まえ、効果の高い放流方法を検討しながら種苗放流を実施した。 | 130万個 5万個放流 | <p>今年7月から実施のウニ漁における生産力の向上が期待されます。 (昨年9月に実施)</p> <p>種苗放流の実施によりアワビ資源の回復と次期アワビ漁での水揚げの増加が期待された。 (漁期は5～7月) また、放流効果を検証する際の資料とするため、前年度までの放流箇所において追跡調査を実施し成長の状況などを確認した。</p> | |
| 集落の創意工夫を生かした取組 | 取組内容 | 取組の成果 | 取組成果の説明 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ●ヤリイカ試験操業（棒受け網漁） ヤリイカ棒受け網漁は、20年程前まで安定した水揚げ実績があったものの、ヤリイカは来遊変動が大きく水揚げが不安定であるため、近年では操業を控える状態が続き、ヤリイカ漁業は失われようとしています。 このため、本操業に繋がる取り組みとして試験的に「棒受け網漁」を実施し、どの程度漁業として水揚げが期待できるか実証することで来遊状況を把握するとともに本操業に繋がるきっかけづくりとして計画した。 ●イワガキ養殖試験 奥尻町のイワガキは、漁業対象種とはなっておらず、棲息状況についてもほとんど知られていませんでした。 そこで、イワガキの棲息場所や資源量調査、奥尻ブランドの可能性を検討するため他府県のイワガキとの比較を計画した。 加えて、安定供給のため関係機関の協力を得て島に適した養殖方法を模索する。 ●ホヤ養殖試験 奥尻島のマボヤ漁は、天然資源に依存しています。漁獲方法は潜水器漁業が主体で、水揚げ量は少なく労力の割には採算性が低いため、重要視されていませんでした。 しかし、東北地方などでは養殖漁業が盛んに行われ、奥尻町においても、ホヤの安定供給を目的に養殖に取り組みたいと考え、人工種苗生産試験を計画した。 | 調査回数 延べ40回 生息地調査 の実施 採苗 3回 | <p>当該年度は、計画どおり延べ40日の操業実績となった。そのうち、水揚げがあったのが17日間で1日の最大水揚げ量は105箱と良い結果ができました。 今後について、ヤリイカは来遊変動が大きいため試験操業を継続して行い、来遊状況（水揚げ）についての情報提供を実施する。 また、ヤリイカ漁は島の漁業の柱であるイカ釣り漁（漁期：6月～1月）の閑散期を利用した漁業であり、来遊状況が好調の際には他の漁業者の本操業へ繋がるものと期待している。</p> <p>棲息地調査の実施により資源量の把握ができた。加えて、親貝を確保できたことと研究機関の協力により種苗生産体制（種苗生産技術の確立と技術移転）に一定の目処がついた。 しかし、イワガキ養殖の定着には時間を要するため、継続して取り組み、新しい特産品として育てたいと考える。</p> <p>研究機関から入手したマニュアルを参考に人工種苗生産に試みたが、産卵時期を逸していたようで良好な成果をあげられなかった。 今後は、この経験を生かし適宜成熟度を見ながら適期を判断し産卵誘発に試み種苗生産技術の確立と種苗確保に努めたいと考える。</p> | |